



TITLE:

京大広報 No. 328

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 328. 京大広報 1987, 328: 269-272

ISSUE DATE:

1987-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209352>

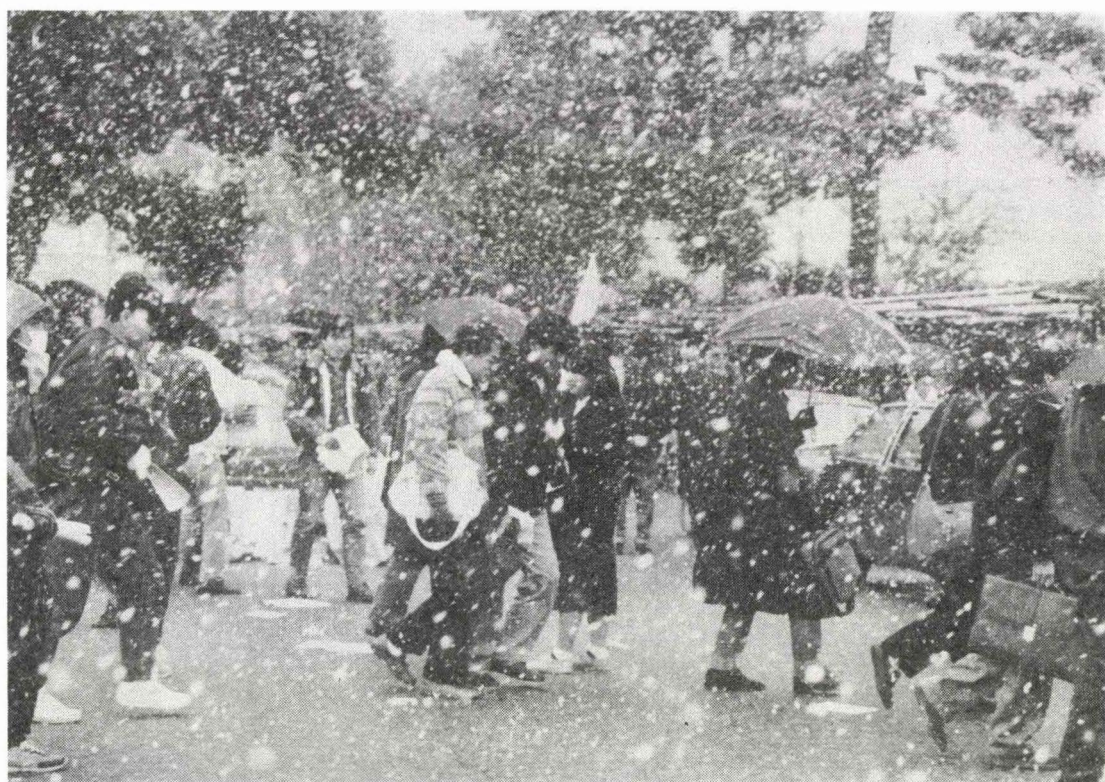
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 328

京都大学広報委員会



試験を終え、雪の中を帰る受験生（3月2日、時計台前で）—関連記事本文 270 ページ—

目 次

昭和62年度入学者選抜学力試験 （第2次学力検査）の実施.....	270
昭和62年度医療技術短期大学部 入学試験の実施.....	270
＜紹介＞ 教育学部図書館学講座.....	270

日 誌.....	271
----------	-----

＜随想＞ 先端技術社会について考える 名誉教授 福井 三郎...	272
--	-----

＜大学の動き＞

昭和62年度入学者選抜学力試験
(第2次学力検査)の実施

昭和62年度入学試験(第2次学力検査)は、3月1日(日)・2日(月)(A日程試験)及び3月

5日(木)・6日(金)(B日程試験—法学部の一部)の両日程で実施された。

各学部(日程)別の受験状況は次表のとおりである。なお、合格者の発表は、既報のとおり3月18日(水)午後、学部ごとに行われる予定である。

学 部	募集人員	第1段階選抜合格者数	受験者数	欠 席 率
文 学 部	220 人	706 人	680 人	3.7 %
教 育 学 部	60	206	197	4.4
法 学 部	400	1,439	1,386	3.7
A 日 程	150	556	528	5.0
B 日 程	250	883	858	2.8
経 済 学 部	240	973	926	4.8
理 学 部	291	2,039	1,917	6.0
医 学 部	120	436	427	2.1
薬 学 部	80	299	281	6.0
工 学 部	995	3,503	3,385	3.4
農 学 部	310	1,093	1,045	4.4
計	2,716	10,694	10,244	4.2

(注)1. 受験者数・欠席率は各学部とも最終の教科のものである。

2. 法学部と経済学部には「外国学校出身者のための選考試験」のものがそれぞれ含まれている。

昭和62年度医療技術短期大学部
入学試験の実施

医療技術短期大学部では、3月4日(水)と5日(木)の両日に昭和62年度の入学試験を実施した。受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は3月16日(月)の午後に行われる予定である。

学 科	募 集 員	志 願 者 数	受 験 者 数	欠 席 率
看 護 学 科	80人	218人	183人	16.1%
衛生技術学科	40	297	274	7.7
理学療法学科	20	153	136	11.1
作業療法学科	20	95	84	11.6
計	160	763	677	11.3

(医療技術短期大学部)

＜紹 介＞

教育学部図書館学講座

図書館学講座が教育学部に設置されたのは、昭和26年(1951年)8月であるが、実際に専任教員が配置されたのは、昭和31年3月からである。以

後、昭和39年に図書館短期大学(現在の図書館情報大学の前身)が創設されるまでの間、国立大学で、図書館学講座が設けられていたのは、本学と東京大学だけであった。現在でも図書館情報大学以外には、国立では4大学にしか設置されておらず、その意味ではユニークな講座であるが、地味

なためか、世間には余り知られていない。したがって、学生諸君も本学の教育学部に入学してから、そういう学問とか講座があることを知ったという者が多い。

アメリカで最初の図書館学科が大学に設けられたのは、今からちょうど百年前の1887年のことである。その後シカゴ大学に大学院課程の図書館学部が設けられたのは1926年であり、現在ではおよそ50大学に図書館学の大学院があり、現場でプロフェッショナルの図書館員として遇されるのは、図書館学の修士号保持者である。両国間における図書館及び図書館学に対する評価ないし社会的認識の差は非常に大きいといわざるを得ない。

初代専任教官となった小倉親雄名誉教授は、研究の面では専ら図書館思想史、図書館学史、図書館学教育に精力を傾けられ、デューイの十進分類法の起源を解明した研究によって、昭和44年にNDC 賞を授与された。さらに本学在職中の研究成果の一部をまとめた『アメリカ図書館思想の研究』によって、昭和52年に日本図書館学会賞を授与された。

さて図書館学を受講し法令で定められた一定の単位を取得すると、公立図書館の司書となる資格が得られるので、文学部その他からの聴講生も多く、毎年数名が公立図書館、大学図書館に就職している。最近では、生涯学習の時代ということで、毎年全国で50以上の公立図書館が新設され、司書に対する需要がかなりあり、優秀な人材が求められている。司書というと一日中机に向かって本の整理をするのが、その仕事のように思われがちであるが、本の分類を決めたり目録をつくるというのは、司書の仕事のごく一部でしかない。司書として最も重要な仕事は、学習・研究その他の目的で図書その他の資料を求めている人に、その人の

そのときの要求に最も適した資料との出会いをつくることである。したがって、司書は図書その他の資料に通暁していると同時に、人間が好きで、親切で、人それぞれの要求の内容・水準を巧みにキャッチできる、そういう能力を身につけないと勤まらない仕事である。

最近、電子図書館という構想が出始めており、将来は家にいながらにして、図書館の資料を利用できるという夢を語る人もいる。しかしそのことが可能になるためには、データベースに入力するデータの基礎になる著者目録、書名目録、件名目録（分類は図書館によって区々なので、分類目録は役に立たない）が整備されていなければならない。ところが、日本ではこれら三通りの目録を完全にそろえている図書館が極めて少ない。特に一部の大学図書館の現状は、学部ごとに分類表が異なり、利用規則も違うなど、理論との遊離ははなはだしく、近代化以前といったくなるほどである。とにかく日本の図書館は欧米先進国の図書館よりも大幅に遅れている。したがって、図書館員は、現状の改革に積極的でなければならないが、それだけ挑戦に値する仕事が多く残されているともいえるのである。

昭和53年に実験講座になってからは、従来の理論・歴史的研究に加えて、市民の利用動向を把握するために来館者調査などを実施して、その成果は、公立図書館の経営に資するところがあった。

本講座のスタッフは、大学における教育及び研究を進めるかたわら、多くは夏期に実施される文部省委嘱の司書講習などに協力し、また地方自治体から要請を受けて図書館の計画・運営について助言するようなこともある。

（教育学部）

日 誌

（1987年2月1日～2月28日）

2月6日 同和問題委員会
 ク 附属図書館商議会
 ク 環境保全委員会
 10日 大学院審議会

18日 国際交流委員会
 23日 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会
 24日 評議会
 27日 総長、大学院生協議会と会見

